

山岳移動通信

# 山と無線



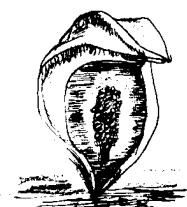
ハムフェア特別編集号

60号

# 山岳移動通信 山と無線 60号 目次

◎ 創刊60号の発行に寄せて	JQ1QUY	福田 賢司	2
◎ 山と無線誌60号に思う	7K1FAT	野田 弘幸	3
○ 表現者礼賛・創刊六十号に添えて	7M3LKF	関子 幸雄	4
◎ 開局1周年記念の乗鞍岳	JK1IFW	有原 一登	6
◎ 1年のあゆみ	JK1NAG	河野 尚美	9
○ FT-65で気軽に移動運用	JF6MZN	宮崎 秀一	12
◎ 丹沢・三ノ塔で144MHz SSB	JE4OFK	藪内 英男	16
◎ 楽しい“山と無線フェスティバル”	JJ1KAE	岩倉 志郎	20
○ 長七郎山・地藏岳	7K1CPT	山田 清治	24
○ 近況報告	7K1BAE	青柳 紘三	29
○ 孫との青梅丘陵ハイキング	JR1NNL	後藤 誠	30
◎ 小沢峠から棒ノ折山までの都県境尾根を歩く	JH1HRT	津村 和男	34
○ 今回もまた白山へ	JL1BWG	飯田 実	39
◎ 和名倉山遠征	JA1DGW	望月 直樹	42
◎ プチ冬山を楽しんだ菜畑山	JH1QZW	滝沢 芳章	46
○ 戦山	JA1CTC	小林 恵一	50
○ 面白い名前の岩峰「あるく岩」	JG1BOK	川真田 智	55
◎ くじゅう連山縦走	JK1VUZ	三縞 健司	58
○ 巻機山バックカントリースキー	JK1NRL	竹之内 一弥	64
○ 出逢い	7M3LKF	関子 幸雄	68
○ 半世紀ぶりに大朝日岳に登る	JJ1TLL	須崎 純一	70
○ 漸く歩けた幌尻岳	JO7XCR	渡辺 五郎	77
◎ (資料) 2022年秋の一斉移動運用記録			82
◎ (資料) 2023年春の一斉移動運用記録			83

ハムフェア特別編集号では◎を掲載しています。  
会員登録していただくと全文をご覧いただけます。



## 特別寄稿

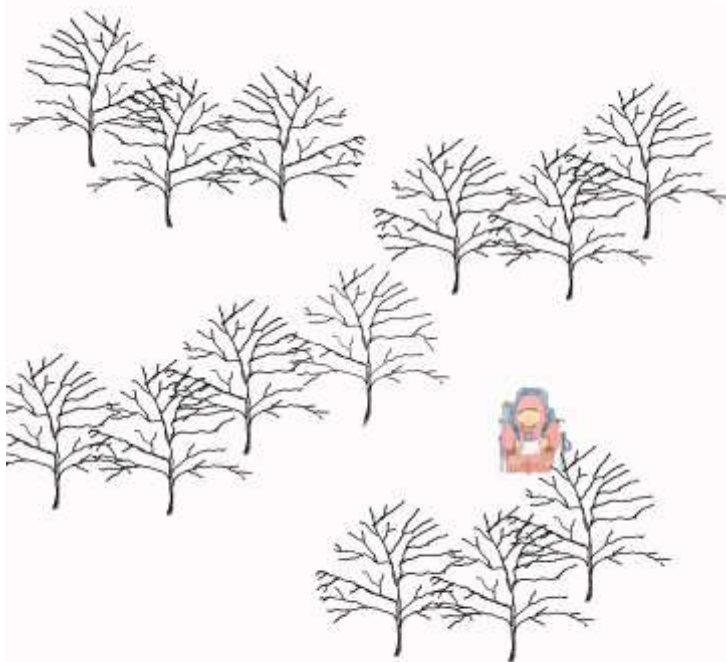
# 創刊60号の発行に寄せて

初代編集長  
JQ1QUY 福田 賢司

第60号、おめでとうございます。よくぞここまで！ 感謝です。

創刊のころの話しをしようと思います。元はと言えば、野原が好きでした。尖った山頂よりは平らなところ。森の中の小さな雪原にテントを張ってのんびりしたい。そんなこともあって、1980年代前半、私は山スキーに夢中でした。

冬の吾妻連峰でソロキャンプをしていたとき、ラジオから大雪警報が流れてきました。登山道も無い山奥にいて、急に心細くなりました。



1984(S59)年 JQ1QUY、430MHzを開局。翌年、「新ハイキング」という雑誌でアマチュア無線の利用を呼びかけ、連絡のあった人に免許やリグについての説明文を配り始めました。利用したのは、当時私にとって一番身近だった手描きの青焼きプリントでした。

1986(S61)年8月「山岳移動通信」創刊、週末の山岳移動局とqsoをするうちに、これと思う人に執筆を依頼するようになりました。原稿を書いてくれた人には無料で配布する仕組みです。ちょうどワープロが使われ始めたころでした。

ちょっと真逆な話しですが、誌面は無線や登山から離れた話題でどれだけ楽しめるかを目指しました(山岳移動運用、もう、それだけでマニアック過ぎる趣味ですから)。避難小屋で泊まり合わせた人とする雑談の雰囲気です。

独りで山に登る人が自分なりの思いを綴ってくださいました。原稿料も会費も送料も無し。もともと大きなグループにするつもりはなかったもので、それでじゅうぶんでした。

山岳移動通信「山と無線」誌を野田編集長にバトンタッチするまで続けられたのは、みなさんの文が魅力的だったからだと思います。

60号達成、よくぞここまで！ 本当にありがとうございます。

## 特別寄稿

# 山と無線誌60号に思う

第2代編集長  
7K1FAT 野田 弘幸

山と無線誌60号おめでとうございます。37年前に手書きの青焼きコピーで出発した山と無線誌が37年を経て60号に到達しました。このような同人誌が37年間も続くのは珍しいことでは無いかと思います。これは皆さんの山と無線に対する愛情と仲間に対する敬愛の賜がなしたことだと思えます。

手書き青焼きコピー誌面は原稿の郵送から始まって、手書きがワープロになり、青焼きがリソグラフ印刷になり、郵送がパソコン通信やインターネットになり、編集作業も切り貼りからパソコンでのDTPにと次々と時代の最先端ともいえる方法で誌面が作られてきました。読者数も最高250名にもなりました。

伊奈町(埼玉県)の県民活動総合センターにみんなで集まり印刷や製本を手作りしていました。名実ともにみんなで原稿を書き、みんなで印刷や製本の作業をしたことが一番の思い出として残っています。そのときのメンバーの顔は今でもすぐに浮かんできますし、それ以降も一緒に山に出かけたり、プライベートのお付き合いが続いたりしています。

残念ながら私はもう歩けない体になりました。終活の一つとして中学時代からの写真をデジタル化しました。そのなかで忘年山行、フェスティバル、ハムフェア、印刷作業の写真は思い出深いものばかりです。そして今でも紙面を飾っている沢山の福田さんのイラスト、福田さんのお嬢さんのイラスト(当時小学生でしたが今はお母さんになっています)も懐かしいものです。

山の好きな人が山頂で無線通信による偶然の出会いを楽しむことはどんなにデジタル化AI化が進んでも絶対になくならない、否むしろかえって求められる楽しみになると思います。発行編集をされる方には負担があると思いますが楽しい作業でもあります。ぜひとも100号をめざしてください。そして読者は原稿をどんどん寄せて編集長を支えてください。

## 開局1周年記念の乗鞍岳

JK1IFW 有原 一登

2021年7月——

東京オリンピック開会式のときブルーインパルスが都内を編隊飛行したことを覚えているでしょうか。雲一つない夏空の日、虹色のスモークの描く軌跡を眺めては彼らがどんな無線交信をしているのだろうと想いを馳せながら、飛行機好きの私は手元に「航空無線通信士」の無線従事者免許証を握りしめてお願いしました。

「私も、この大空に自分の声を届けたい……!アマチュア業務でなら私にもできる!」

そんな得も言われぬ高揚感が身体中を駆け巡って、秋葉原の無線屋でついにハンディトランシーバを購入した私は、勇気を出してアマチュア無線の世界に飛び込みました。局免の年月日は2021年8月27日でした。

それから1年後の2022年8月、「もうすぐ開局1周年か……」そんなことを漠然

と思いながら、何か記念に残る運用を試してみたいなあと感じていました。そのときふとアイデアが浮かんだのです。高い場所から無線をやればハンディ機でも遠くまで電波が届くはず——そうだ、昔から気になっていた乗鞍岳に行ってみよう、と。これが、私が山岳移動運用に行き着いた経緯です。

実は登山には、とりわけ北アルプスの山々には昔からずっと興味がありました。テレビの空撮系番組を見ては、自分の目でこの山々の景色を見られたらすごいだろうなと思いつつも、道具をそろえる費用とか遭難のリスクとか、どうも一般人の感覚で山へは行ってはいけない気がして行動に移せていませんでした。それでも、きちんと調査を行って登山靴を用意すれば、一人でも安全に行くことはできるのではないだろうか。無線を楽しみたいという気持ちがいい具合に活性化エネルギーを押し上げてくれて、開局1周年に乗鞍岳で記念運用をするという計画が浮上したわけです。大昔に無線とは関係なく乗鞍岳に初めて興味を持ってから、実に10年越しのことでした。

8月26日、私は前泊した松本から電車とバスを乗り継いで畳平(日本一標高の高い(2,702メートル)バス停)に降り立ちます。できれば開局1周年ピッタリの27日に登りたかったのですが、天気がよろしくない予報だったので1日ずらして26日に登る計画に。こんなに高い場所に来たのは初めてです。酸素が薄いのを実感することこそありませんでしたが、高度順



夏空の思い出

応の時間を十分取って、こまめに水分を取りながら普段の街歩きの半分の速度で歩くようにするなど非日常の環境に留意するよう心掛けました。イワギキョウやオコジヨなど、高い山ならではの動植物に会えてとても嬉しかったです。

乗鞍岳の主峰・剣が峰の頂上を目指しての登山道では、実にダイナミックな風景の中にいる自分を実感しました。「そうか、山に来る楽しさって、こういう絶景が自分の目で見られるということなのだな」——そんなことをしみじみ感じ取って。途中からはかなりガレた岩場になり、しっか



イワギキョウ



オコジヨがこんには

りした登山靴を履いてきてよかったなあと思いました。乗鞍岳は楽勝だからハイヒールでも登れる、なんて触れ込みを聞いたことがあります。絶対嘘でしょって感じましたね……。まあ、足が怪我だらけボロボロになって帰ってくるということであれば不可能ではないのかもしれませんが。他方、登山靴の技術とはすごいもので、登山から帰ってきた私の足には傷ひとつついていませんでした。やっぱり道具は大事。



絶景の登山道

雄大なハイキングを全身で受け止めながら1時間強、いよいよ山頂が近づいてきました。この大空を仰ぎ見て、「今私は、人生でいちばん空に近いところにいるんだ——！」そんな高揚感が自ずと湧き上がってきます。そしてついに標高3,026メートルの乗鞍岳剣が峰山頂にたどり着きました。

さて、乗鞍岳山頂から無線をする、という当初の目的を果たさなければなりません。ザックから愛用のFT-70Dを取り出して、2メートルでCQを出してみます。するとどうでしょう、一声呼んだだけで複数



山頂にて

の局長さんのコールが聞こえてくるではありませんか。パイルなんて初めてですし、レポートは59ばかり。高い山って本当にすごい! 皆さまとたくさん、楽しい交信をさせていただくことができました。とりわけ、群馬県太田市の局長さんとつながることができたのは、私の短い無線経験の中でも最長更新距離(150キロ程度あるかなと思います)でした。すっかり、高山移動運用の魅力に取りつかれてしまった私です。ずっと来てみたかった乗鞍岳に無線機と一緒に登ることができ、最高の開局1周年となりました。

自分の足で知らない絶景を見に行こうとする登山と、自分の力で知らない人に声を届けようとする無線では、その魅力は一面において似ているのかもしれませんが。私が航空無線通信士を取得しようと思ったのは好きだった海外旅行にコロナ禍で行けなくなり、それでも学問の力で世界の空とつながっていたいと願ったからでした。今はハンディ機でV/UHF帯の運用しかしていないので世界中の空とはいきませんが、こうして実際に大空に自分の声を届けて皆さまとお話していただ

けるようになって、アマチュア無線を始めて本当によかったなあと思うのです。

JK1IFW、ここまで続けてこられたことに感謝です。開局1周年記念旅行で大空に近いこの場所からオペレーションできたことを、航空無線通信士として誇りに思います。そして今シーズンもきっと、どこか日本アルプスの山に登ってお山の上からCQ出してみたいなあと願うのでした。



高度3,026mのオペレーション



大空に届け、開局1周年の夢

# 1年のあゆみ

## JK1NAG 河野 尚美

山での無線交信に憧れて、昨年3月に3アマ免許を取得し、6月によく開局にこぎつけた私、それから約1年、実際に無線局の運用を始めてどんな感じだったか、1年の“あゆみ”をつけてみようと思う。

まずは、第一の目標である山での無線運用。先輩OMに安くて壊れにくく使いやすい、と薦められたFT-65を購入。若干重さを感じるものの、非常事態にも備えることを考え、実際の運用の有無に関わらず、ほぼ毎回山行に持参した。しかし、無線をしない人との山行で無線をすることがいかに難しいか徐々にわかってくる。そもそも山の会では休憩時間は最長でも20分。昼食を取るとほとんど無線する時間はない。それじゃあ、歩きながら無線すればいいか、と思い何度か試みるが、アップダウンで音声途切れ、相手のコールサインなどすぐには覚えられず、かといって歩きながらのメモは至難の業。最後尾にしてもらいなんとかしようと思うが、タイミングも合わずなかなか思い通りにいかない。結局、主に聞きながら歩き、眺めの良い電波の飛びそうな所での休憩時にタイミングよくCQが聞こえたら呼ぶ、という形がメインになる。ごくたまに無線に理解ある人達と少人数での山行となった場合のみ、自分からCQ出して少し交信

を楽しむことができた。

また、アンテナを持参し、腰を落ちつけての山での無線移動運用に数回参加したが、同じ場所で近い周波数で呼ぶことができない、大人数で行くと順番待ちになるという事を知った。交信してる人以外は座ってだべってる感じ。うーむ、なんだかなあ、、、楽しいのか？でも、仲の良い友達同士ならいいのかも。でも、430MHzと144MHzしか出せないなら、2-3人、多くても4人までかな、、、無線だけじゃなくて、山ご飯やスケッチなど他の楽しみの準備もしていけば良さそうだな、、、とここで認識。4月に三の塔に3人で登った時は、交代したり、山ご飯を準備したりして楽しく移動運用ができた。今後どういう形で登山と無線を組み合わせる楽しんでいくか、まだまだ課題はあるけれど、色々試行錯誤しながら楽しんで行きたいと思う。

(実際に交信できたお山：当麻山、鎌倉六国見山、燧ヶ岳、鳥海山、谷川岳、高尾山、三俣蓮華岳、黒部五郎岳、北穂高、前穂高、奥穂高、岐登牛山、瑞牆山、蝶が岳、常念岳、妙高山、上州武尊、三嶺、湘南平、鳶尾山、八菅山、甲武信ヶ岳、扇山、武山、丹沢三峰、比叡山、巢雲山、蛭が岳、塔ノ岳、入笠山、三の塔、夏沢峠、大丸山、小鋸山)



次に、固定局からの運用。当初、あまり家からの無線は考えていなかったが、高尾山でYLさんと交信し、定期的にオンエアミーティングをしたり集まったりしてるので、ぜひ一緒に楽しみましょうと紹介された。あー、そんな楽しみ方もあるんだ、と思い、OMさんに相談すると、無線機の種類、アンテナの設置を手伝ってくれることになり、思い切ってFT-991を購入し、家でも楽しめるようにセットアップしてもらった。しかし我が家はあまりロケーション良くなく、アンテナも大掛かりのものではなかったので、設置当初は平日の朝晩は

あまり聞こえないし、土日は山に行くことが多くほとんど家にいない。運良く夜に交信相手見つけて喋っていると、夫からはうるさい、知らないおじさんと喋って何が楽しいんだ、と文句や嫌味を言われる。うーむ、使えないじゃん、これは宝の持ち腐れか・・・どうしようか・・・と放置気味。でもやっぱりなあ・・・せっかく買ったしなあ・・・と思案し、思いついたのがCWとFT8。なんとか144、430MHz以外も入るようにできないかOMさんに相談し、ロケーションやアンテナを色々工夫して7MHzなども入るようにセットアップ



FT-65あちこちに連れ出してみました。山だけじゃなくて海にも…。

してもらった。FT8はパソコンのセットアップで比較的容易に始めることができたが、問題はCW。中年となりいろんな能力の衰えてきた我が身では、覚えてもなかなか聞き取れない、頭がついていかない…。でも、いずれできるようになって、お山からもCWできるようになりたいって目標ができた。また、無線を未長く楽しむため、今のうちにできること、と思って、e-learningで2アマも取得した。これで準備万端、かな、と今のところは思っている。

ということで、今年のあゆみは、よくできました、丸〇、かな。いや、大変よくできました、二重丸◎つけてもらえるかな。少なくとも、もっと頑張りましょう、三角△、よりはいいと思うけど。



甲武信小屋でテント泊。  
テントの中からも交信できました。



QSLカードつくってみました。ちょっと字が小さすぎると指摘されましたが…。

## 丹沢・三ノ塔で144MHz SSB

～山と無線 2023年春の一斉移動運用～

JE4OFK 藪内 英男

2月中旬、山と無線MLで「春の一斉移動運用」を実施しようという計画が持ち上がる。確かに秋だけでは勿体ないかな？という気持ちはよくわかる。運用機会の増加につながるナイスアイデアである。

時を同じくして、JF6MZN宮崎さんから「一緒に移動しませんか？」という連絡をいただく。チャンス到来。宮崎さんとの相談で、移動運用地として塔ノ岳、鍋割山、大山などが候補に挙がったが、アクセス、運用可能時間等を考慮し三ノ塔(神奈川県秦野市 標高1205m)に決定した。

運用周波数・電波型式は宮崎さんが430MHz FM、私が144MHz SSBを選択。本当は50MHz SSBにしたいところだったが、4月下旬の開催。もしもEスポが出てしまったら相手にされなくなる…という心配があった。どうやらその心配は結果的に杞憂だったようである。ま



発売当時には買えなかった  
八重洲無線FT-290

あ、物事何でも結果論。致し方あるまい。あと、心の奥底に「144MHz SSBに出たい」という気持ちがあった。50MHzを開局するときに導入したFT-690の姉妹機であるFT-290。学生時代から社会人になり立ての頃に発売されていた無線機である。

50MHzがやりたくてFT-690を購入したが、FT-290までは手に入れることができなかった。

私はこれを2020年11月に入手。それまで144MHz SSBは往年の名機TS-700G IIによる自宅からの運用のみであり、移動運用の実績は皆無であった。

移動運用の時にどんなアンテナを使うのか…50MHzは水平偏波のアンテナが主流だが、144MHzなら垂直偏波。真っ先に思い浮かんだのがサガ電子工業のアローライン。HFからアマチュア無線の世界に飛び込んだ私が、開局5年目にして2mを始めるときに最初に使ったアンテナがアローラインだった。これならザックに入れられそうだし、設営も簡単ではないか？という発想である。あの「神秘的な電波の飛び」を再び味わおうではないか！当時の実売価格が2500円くらいだったと記憶している。今では4倍近い値段に上昇している。これも致し方ないであろう。

FT-290にサガ電子アローラインAL-144Fの組み合わせ。自称「昭和スタイル」のノスタルジック運用。これが今、私のアマチュア無線ライフの主流となりつつあるが、何はともあれ、自分自身が楽しいと

思えることが大切なのだ。

4月23日。天気予報は晴れ時々曇り、予想最高気温20℃であったが、朝からどんよりとした曇り空。そのせいか気温も低め。ただし、雨の心配はなさそう。

0500自宅を出発。セブンイレブンで朝食を調達。県道70号線でヤビツ峠を越え、0555菩提峠駐車場に到着。この時間にして菩提峠駐車場はほぼ満車。やはりこの時期は登山客も多く、早く到着しておいて正解であった。

私が車を停めた反対側に宮崎さんらしい人影を発見！ 恐る恐るご挨拶すると間違いなくJF6MZN宮崎さんだったのでホッと胸を撫で下す。何しろ面識はあるものの、2021年12月、須崎さん、図子さん、新見さんとともに横須賀市鷹取山へ行ったときに1度お会いしたことがあるだけで、今回が2回目。あのときからすでに1年半ほど経過している。人違いでなくてよかった。

宮崎さんの車の後ろには、急遽参加することになったJK1NAG河野さんが朝食の準備をされているところであった。早速ご挨拶。河野さんとは今回が初めてのアイボールになるが、山と無線MLでコールサインとお名前は存じており、まるで旧知のお友だちのようにお話をさせていただく。このあたりがアマチュア無線という趣味のいいところだと、私は強く思う。

DX、自作、アワード、CW、そして山岳移動運用など、アマチュア無線の楽しみ方はいろいろあるが、無線をやっていないけれ



日本武尊足跡付近にて  
(左よりJE40FK、JF6MZN)

ば決して出会えなかったであろう方々とコミュニケーションが図れること。これが最大の魅力ではないだろうか？

菩提峠駐車場でおしゃべりをしていたらアツという間に1時間以上が経過。0713三ノ塔に向けて出発。しばらくは杉林の間の道なき急登をジグザク。時折、右に大山、左に秦野盆地、足柄平野を望む。登り始めて30分。雑木林、杉林の繰り返しを経て、0746日本武尊足跡に到着。ここでしばらく休憩。

さらに行くと、大倉尾根、足柄平野が一望できる大音沢ノ頭に到着。晴れていればここから富士山が大きく見えるのだが、残念ながら雲に覆われ、山頂だけが僅かに確認できた。

ここから先は尾根伝いの道。0814二ノ塔に到着。せっかく稼いだ標高だが、三ノ塔に向けて一旦下る。いつもながら勿体ないなあ...と思う瞬間。

目と鼻の先のように思えるが、ここから先しばらく歩きづらい木道が続き、長く感じられる。0829三ノ塔到着。休憩を含んで1時間16分。まずまずのペースと思われる。

早速、アンテナ設営。今日は車でのアクセスだったのでケーブルキャッチャーではなく3mアルミポール(旗竿)を使ってアローラインを上げる。2022年秋ごろのML投稿を読んでいただいた方なら「ああ、あのアルミポールだね…」と思い出していただけなのではなかろうか。

アローラインの固定はビニールテープでグルグル巻き。簡単で確実な方法であるが、これをケーブルキャッチャーでやると、ビニールテープを取り外すときにグラスファイバー表面のオレンジ色の塗装が剥がれてしまうので要注意。撤収するときにはゴミも出る。別によい方法はないか？ 考え中。

予定していた運用開始時刻に間に合い、0900にCQ開始。1回目は空振りも、2回目に横浜市青葉区のJ11AVMに呼ば



三ノ塔運用風景  
向こうに見えるのが大山

れ交信。以降、立て続けに呼ばれ続ける。今回もおなじみのお友だちからたくさん呼んでいただく。「今度、久しぶりに一杯やりましょう…いいですねえ～ぜひ！」などと交信は盛り上がる。もっと長話をしたところであるが、グッと我慢の子。パイルを浴びているのでショートQSOで切り上げる。

2way FT-290での交信も2局と成立(TNX JN1GIH, JA8XUB/1)。まだまだ現役USERがいらっしやることをうれしく思う。

ある局からは「1990年に境港から7MHz CWでお相手いただいています」と言われ、うれしくなる。荷物の都合もあって電鍵は持参しなかったが、電信は大好きなので、たまには電鍵を叩きたくなる。問題は需要があるかどうか？ リクエストがあるのなら、よろこんでCWに出ようと思うのだが…HW？

QRTまで47局と交信。お相手いただいた各局に感謝。山と無線MLメンバーとの交信はJJ1STD藤川さん、7K2FAE/1志村さんの2局のみ。事前のアナウンスを見ても144MHz SSBを運用するメンバーは少なく、仕方ない。

その代わりに、「山と無線 春の一斉移動運用」に関してはできるだけアナウンスして宣伝しておいた。一斉移動運用の目的は果たせたのではないかと思う。

1200に運用終了予定であったが、たくさん呼んでいただき、最後の交信終了時刻は1207。

この間、河野さんにラーメンを作っていた  
いただいていた。交信終了時刻が延びてラ  
ーメンも…とならないように、早足で交  
信。後ろ髪を引かれる思いでQRT。パイ  
ルで拾いきれなかった局には本当に申し  
訳ない気持ちでいっぱい。

野菜たっぷりラーメンと淹れたてコーヒ  
ーをご馳走になる。ありがたや～ありが  
たや～。山頂での温かい食べ物、飲み物  
は格別。温まるし、疲れが取れる。無線運  
用中はずっと曇り空。日差しはなく、とて  
も寒かったが、ほぼ無風だったのがせめ  
てもの救いであった。

広げた荷物を仕舞って、1406下山開始  
するころにはすっかり人の気配は引い  
て、私たち以外は3人ほどになっていた。  
午後から日差しが戻り、青空が広がって  
きた。もう少し早かったらよかったのだが  
…下山は同じルートをピストン。1507普



JK1NAG 河野さん特製野菜ラーメン  
をご馳走になる



記念撮影 左から  
JK1NAG、JF6MZN、JE4OFK

提峠駐車場到着。さすがに駐車場の車も  
すいぶん少なくなっていた。430MHz  
FMで交信しながら2台連なって走行。秦  
野市内でお別れ、ファイナルを送る。

自宅に帰ってHAMLOGデータ入力しな  
がら調べてみると、交信していただいた  
47局のうち、1st-QSOは17局。率にし  
て36.2%であった。

2023年4月末現在、総務省電波利用ホ  
ームページによれば、アマチュア無線局の  
総数は37万局を割り込んだ。しかし、そ  
れでもまだまだ1度も交信していない局  
は数多く存在する。さて今日は誰と交信  
できるかなあ…と考えながら山へ登る。  
そんなふうこれからも、山登りと無線と  
ヤマメシと、そして仲間とのコミュニケー  
ションを楽しんでいきたい。

TNX JF6MZN ES JK1NAG

# 楽しい“山と無線フェスティバル”

JJ1KAE 岩倉 志郎

このところ大分落ち着いてきているコロナであるが、その為に2019年を最後に山と無線フェスティバルは開催されていない。誠に残念なことである。最近入会された方々も多くなり、この催しをご存じないメンバーも多くなって来ているのではと思う。山と無線フェスティバルとは、山近くの宿にメンバー一同が一泊して、その前後に個人や仲間と近くの山に登って無線運用を楽しむのである。初日の夕食後、各部屋では山談義やリグ・アンテナの情報交換など話は大変盛り上がるのである。

## 1. その歴史

私はこの会の創立時からいるわけでは無いので、全ては知らないのだが本誌57号の青柳さんや同58号の滝沢さんが書かれている1993年12月の雁峠山荘忘年会がどうやら2回目の“山と無線フェスティバル”と言ってよさそうである。

そうすると第1回目は、その前年1992年正月に日光市の庚申山荘で開かれた新年会となる。私はその後1995年の入会なので参加したのはその年の12月桐生青少年野外活動センターで開催された忘年会からである。

## 2. 最初の参加

当時の野田編集長から秋口になると、この山と無線フェスティバル開催の美しい案内ハガキが送られてくる。これを見ると直ぐにでも行きたくなるような感覚が

訪れる。でも当時は勤務していたし、その頃の山行は殆どが自宅近くの奥多摩周辺ばかりで、案内ハガキの山は結構遠方に感じることもしばしばだった。今回、97年は是非にと思って長野・野反湖キャンプ場で開催される第三回山と無線フェスティバルに出席することにした。

当時、車は普段から乗ってはいしたが山へは公共交通機関でしか行っていなかった。

その為道路や登山口の知識も乏しく、今思うとあまり良い設定ではなかったが、前日には短時間で登れそうな比較的高い山・東麓ノ登山に登りその後山を越え草津方面に出て目的地へ行くというルートを設定した。

記憶が定かでは無いが、車を地蔵峠まで進め林道を東に進んで池ノ平の駐車場に入れた記憶である。当日は曇りで風もあった。ゆっくり登って小一時間程でゴロゴロ岩の山頂に着いた。アンテナを組んだのは良いが、固定する樹木が全くないので手で持ちながら受信開始。何とメンバーのJF2HBH堤さんの変調が聞こえてき



野反湖キャンプに集まったメンバー車

た。どちらかの局とQSO中だったようだが、強引にブレイクしてレポート交換して貰った。これで目的達成、下山開始した。

車に戻り、野反湖を目指すのだがこれが中々大変だった。当時の車にはナビは付いていなく、山中なので道路地図を見てもはっきりしない。あちこち試行錯誤して何とか群馬側に出て、やっと野反湖に向かう道に出たときは内心ホッとした。野反湖周囲の森は黄葉で真っ黄色でとても美しかった。湖の北側にあるキャンプ場入り口に車を進めるとそこには野田編集長の姿が、でも初参加の当局を知っている訳がない。挨拶をして奥の駐車場に車を置いてきた。

を置いてきた。

夕方になりメンバー各局も集まり、キャンプファイヤーを囲んでの夕食が始まった。暗いので仲間の顔はよく見えなかった。でも顔見知りの人は殆どいないのでこれでも良かった。ここ辺りまでは良かったのだが、この後自分の体調は絶不調に…結局、翌朝も絶不調のままだったので何処の山にも登らずに、SA、PAで休みながら、騙し騙し運転して這々の体で自宅に戻ったのだった。

この時残念ながら登れなかった野反湖周囲の山々(八間山、弁天山、エビ山等5座)は04年7月にXYLと再訪して登った。



**Festival 97  
Mountaineering  
& Ham Radio**

**第3回山と無線フェスティバルへのお誘い**

全国から山と無線の好きな仲間が集まる「山と無線フェスティバル」です。初めての方もすぐ仲間が出来ます。  
仲間と、ご家族と、奮って参加ください。

○日時 平成9年10月4日(土)～5日(日)

○場所 野反湖(のぞりこ)キャンプ場  
群馬県六合村(くそむら)野反集群  
Tel 0279-95-3111(六合村役場事業課)

○宿泊 持ち込みテント(第2キャンプ場、設備完)  
バンガローロッジがありますので、テント以外でも参加出来ます。ほお標高が高いので相当寒いことが予想されますので、ご家族連れ、高齢の方などはロッジ(素泊まり4000円)をご利用ください。

○キャンプファイヤーを囲んで、バーベキューを行います。

○申し込み テントご利用の方は9月25日までに  
ロッジご利用の方は9月18日までに  
お申し込みください

お申し込み先はハガキ表に記載してあります。  
おすすめの山、交通など詳細はお申し込み後にご案内します。(交通費、宿泊費各自、会費3000円)



POST CARD

□□□□

67 59 40  
CRAV

羽村市

岩倉 志郎 様

**y**  
The Club

山と無線編集部  
7K1FAT 野田 弘幸

開催案内ハガキ



### 3. 食事が一番おいしかったフェスティバル

山小屋や宿の食事はおいしい事に限るのだが、2018年11月に開催された千葉県でのフェスティバルは希にみる食事の良さで、参加全員感激した？ ものである。また宿の目の前が海、というのも初めてのことである。

当局はこの頃になると自家用車での山行は控えていたので、同じ沿線住んでいるJR1NNL後藤さんの車に同乗させてもらい参加している。いつもお世話になりっぱなしの状態なのだ。

ここ房総で選んだ山は2.5万円「金束」の津森山、人骨山等6座だった。標高は300m程なので移動運用にはもってこの気楽さがある。

最初の津森山は東峰と西峰の2ポイント稼げるお得な？ 山だった。次はここから程近い人骨山で、山頂からは後に登る富山の双耳峰が展望できた。二つの山では後藤さんは山には登らずに車で待機してくれて。申し訳ないことをしてしまった。

そして本日最後の山は富山(北峰349m、及び南峰)だが、多くのメンバー



富山(北峰)

局が登っているに違いない。林道？ の奥まで車を進めて降り立ったところは富山遊歩道入口で、45分程歩くと山頂に到着するとの指導標が立っていた。

北峰の山頂は結構広く中央には木製の展望台が設置されていた。ここには予想通り、多くのメンバーが集結し運用したり、準備したりしていた。私はここ北峰で日光移動局とQSOの後、一人で南峰に行ってみた。そこには荒れた観音堂と広めの休憩舎があった。周囲は樹木に覆われていて展望は殆どないところだった。ここで北峰にいるJI1TLL須崎さんとQSOしてポイントゲットを完了した。山頂からは夕日が反射している光る海が見えるようになって来ていた。運用終了したメンバー各局と一緒に下山開始。いよいよ今夜の宿・保田漁港“ばんや”へ向かって出発である。

途中海の近くで道を間違えたようだったが何とか宿に到着した。ここは目の前が直ぐ海で、今までフェスティバルをやったことがない土地柄だ。

宿に到着して部屋割りも決まった後、夕食が始まる前までそれぞれの部屋では各



鬼出没の伝説が残る人骨山(293m)

メンバーが今日登ってきた山の事、地図を見ながら明日の計画、そしてリグ・アンテナの工夫したことなど話は尽きることはない。中には早朝出発の疲れが出て一眠りの局もいるようだ。

そうこうしている内に、いよいよお楽しみの夕食の声が掛かった。一同いそいそと食堂に向かっていった。

食堂には刺身の大盛り、魚の揚げ物、煮物と素晴らしい沢山の料理が所狭しとテーブル並んでいた。流石！ 漁協直営の宿の食事だと大変感動したのものである。

#### 4. 最終日は南房総市の御殿山(364m)

翌日の11月11日はフェスティバル最終日。後藤さんと相談して御殿山に行くことにした。ここ保田の港から東南東の方向になり、ほぼ半島の中央部分にあたるころのようだ。山頂からは内房・外房の海が見えるかも知れないという期待もある。普段は海を見ることは殆どないので、半島と言うところに来るとどうしてもこのような子供じみた事を考えてしまうようだ。登山口にはトイレ付きの大きな駐車場があった。



テーブルに並んだ、目を見張るほどの豪華な夕食

車道を登って行くと登山口になる。更にもうその先で最後の住宅を見送ると山道になった。その先しばらく行くと下を見下ろせる場所に大黒様が鎮座している。ここから程なく最後のもっこり盛り上がった山頂部を急登して御殿山に到着した。後藤さんは中央の四阿で準備始めた。私もさっそく開局して奥多摩・赤指山の移動局と鋸山に登っているJI1TLL須崎さんとQSOできた。これで房総フェスティバルで登る予定の山は完了した。後は後藤さんの運転で東京に戻るだけだ。往復の運転本当にお疲れ様でした。

(登山日:2018.11.10~11)



楽しい語らいのひととき



御殿山山頂から太平洋側を望む

# 小沢峠から棒ノ折山までの 都県境尾根を歩く

JH1HRT 津村 和男

東京に住んでいた頃、東京都と接する埼玉県との都県境尾根は、雲取山から棒ノ折山まで歩いていたが、その後、北アルプスや八ヶ岳などに目移りして、棒ノ折山以降の都県境歩きのことはすっかり忘れていた。今回の山行は『山と無線』のメンバーが小沢峠から登った山行報告を見て、まだ歩いていないルートがあったことを思い出したからだった。また、小沢峠から細田安楽寺方面へ都県境は続いていて、「成木尾根ハイキングコース」というコースもあるようだ。時間があれば行ってみたい。

(因みに神奈川県との都県境は草戸山まで歩いている)

## ● 小沢峠へのアクセスは上成木から

青梅線の青梅駅前から乗った「上成木」行の都営バスは、私の他には高齢の女性が一人の二人だけで終点の上成木へ着くと、そのバスは停留所で待っていた人を乗せすぐに戻っていった。

バス停の前には2、3人が入れば一杯になりそうな待合所、建築現場にありそうな一人用のトイレ、そして今では珍しくなった公衆電話が置かれていた。また、バス停の真向かいには大きな上成木周辺の絵地図もあったので見に行くと、小沢峠方面だけではなく、高水山方面へ行く道についても書かれていた。

待合所の中で朝食のいなり寿司を食べ、荷物を整理してから出発。バス停から舗装道路を右へ行き、国道53号に出ると時々オートバイや乗用車が追い越していく。正面に見える橋を渡った先に小沢トンネルが見えてくる。その橋はわたらずに右へ分かれる道に入る。

国道から分かれた道の右側には『小沢峠』と刻まれた立派な石碑があり、その石碑の前の道をしばらく行くと人家があるが行き止まりとなっていた。その手前には細い踏み跡があり『黒山』への道標があったが、なぜかロープで道は遮断されていた。しかし、通行止とも何とも表示されてはいないので、ロープを跨いで先へ行くことにした。

## ● 小沢峠

登っていくと小広くなった場所に出た。そこが小沢峠のようだが予想よりも早く着いたようだ。ここで『細田安楽寺』『成木』『棒ノ峰』『小沢』の四方向に道は分かれている。もちろん黒山へ行くので棒ノ峰方向へ行くのだが、峠から黒山方面へ行く道はすぐ樹林の中の木段を登っていくよ



小沢峠

うになる。

昨日は雨でも降ったのだろうか登山道は滑りやすくなっていた。樹林の中の道を行くので天気の様子はわからないが、気温は上がってきているようだ。登山道沿いにある木は植林された木なのだろう、幹はそれ程太くはないが高さは結構ある。そんな樹林に囲まれた道を30分ばかり登っていくと、石造りの小さな祠が安置されている所に着いた。

その後も諏訪神社への分岐などがあり、ちょっと気になったので帰宅後『東京の山』(読売新聞 八王子支局編 草風社刊 昭和50年)という本をみると、このルートは埼玉方面からの信者が多く通っていたと書かれていた。

### ● 長久保山

小沢峠から一時間二十分ほどで小広い場所に出たが、そこには『長久保山』という山名柱や『二級基準点 青梅市』という丸形のプレートが設置されていた。この長久保山、昭文社の地図には標高(689m)のみが記載されているだけで、山名は記載されてはいなかった。樹林の中のため



長久保山



馬乗馬場

眺めはないが、広場にもなっているので、倒木に腰掛けてちょっと一休みしていくことにした。

長久保山からさらに樹林の中の道を行くと、突然登山道を横切るように未舗装の林道が現れた。ただし埼玉県側を見るとまだ工事は始まっていないのか、通行止めとなっている。上成木のバス停を出発して少し行った所で道路工事をしているのを見たが、あの道がここまで来ているのだろうか。

黒山方面へは林道を横切り前にある樹林の中の道を行くようで、林道のそばにある木の幹には『黒山方面 登山道』という紙が貼り付けられていた。

林道を横断して樹林の中の道を行くと道は緩やかになり、しばらく行くと木に何か貼った物があったような気がしたのでちょっと戻ってみると、そこには『馬乗馬場 780m』と書かれた紙が貼られていた。馬乗馬場(地元ではウマノリババと呼ぶようだ)とは一体どのような意味なのだろう。

因みに石尾根には「将門馬場」、丹沢山と塔ノ岳の間には「竜ヶ馬場」という場所が

あったが、どちらもあまり起伏のない場所だったような記憶がある。

### ● 黒山では今日最初の無線運用

馬乗馬場からしばらく行くと前方にピークらしい場所が見えてきた。最初黒山かと思ったが、まだそこは黒山ではなく、さらに急登を行き右にカーブして着いたところが黒山の山頂だった。山頂は樹林に囲まれてはいるが木漏れ日で明るかった。

小沢峠からの道が登り着いたすぐの所には『奥武蔵ロングトレール 黒山』と書かれた山名柱があり、小広い場所のほぼ中央にはちょっと壊れかけた別の道標と、その横には三角点があり、道標の前には壊れかけたベンチがあった。そのうちの一つに腰掛けることにした。

私が黒山に着いた時一人の若い登山者が三角点の前で休んでいたが、岩茸石山方面から来たようでしばらく休んでから棒ノ折山方面へ歩いて行った。その後私が出発する直前には一人の中年の登山者が棒ノ折山方面から来ると、しばらく三角点のある場所を歩き回っていたが、小沢



権次入峠

峠方面へ降っていった。しかし、この登山者本当に小沢峠方面に降って良かったのだろうか？ というのは棒ノ折山方面から来ると岩茸石山方面への道は木に隠され、ちょっとわかりづらかったからだ。

さて、ここで今日最初の無線運用を行うことにした。今日は平日でもあり、12時前ということでそれほど430MHzも混んではいなかった。サブチャンをチェックしてからメインでCQを出すと30分ほど坂戸、古河、龍ヶ崎、久喜の局、5局ばかりと交信をすることが出来た。

### ● 有間ダムへの分岐 - 権次入峠

黒山からの降りは昔から登山者が多かったためだろうか、一部石段になっている所もあり、そこを降ると幅の広い登山道を行くようになる。二十五分ほどで権次入峠だった。ここは樹林に囲まれているとはいえ明るく、黒山よりは広くベンチの数も多かった。

黒山から権次入峠に着いたすぐの所には道標があり、まっすぐ広場を通って行けば『棒ノ嶺』、その道とは直角に行けば『有間ダム』へ行く。私がここに着いた時、棒



黒山山頂

ノ折山で食事を済ませて来た人達だろう、そのほとんどが有間ダム方面へ降っていった。

ここにはベンチが沢山あるが、有間ダムへの降り口のそばにあるベンチに腰掛け、取り敢えず無線の準備をする。山の頂上から無線運用をするならわかるが、あまり峠で運用することはなかった。しかし、『日本山名事典』を見ると権次入峠も記載されていた。そのため昼食休憩を取るついでにここでも運用しておくことにした訳だった。さて、黒山では結構呼ばれたのでまず430MHzを聞いてみると、昼休みの時間なのか、サブチャンネルはほぼすべて使われていて出る場所がなかった。仕方がないので50MHzも聞いてみたが、こちらはノイズばかりで何も聞こ

えなかった。そのため食事をしてから再度トライすることにして食事にした。

食事をしている間にも登ってくる人や降っていく人など、平日だというのにここは結構人気がある山のような。食事をした後もう一度無線を聞いてみると430MHzは相変わらず混雑はしていたが、なんとか空いたチャンネルを見つけCQを出すと、古河市のおなじみさんに呼んでもらった。ここでは一局だけと交信して閉局とした。

### ● 三度目の棒ノ折山

棒ノ折山は以前二度ばかり来ているので登らずに戻ろうかとも思ったが、ここから山頂まではそれほど歩くことはないので行くことにした。



棒ノ折山山頂

権次入峠を出てから最初はそれほどアップダウンのない道だったが、山頂が近づくと登りは急になり、木の根の出た道は、前日にでも降った雨なのか滑りやすくなっていて登りにくい。しかし、そこを登り切ると広々とした明るい場所にでた。そこが棒ノ折山の山頂で東屋やベンチが点在していて、何組かの登山者が食事をしたり休んだりしていた。

今回の山行の目的は「小沢峠から棒ノ折山までの未踏の都県境尾根を歩く」とい

うことだったので、一応ここで目的は達成された。棒ノ折山からの帰路については特に決めてはいなかったが、時間的なことを考えると奥茶屋方面に降りれば、青梅線の川井駅までバスで行けるので一番楽だが、上成木のバス停に置かれていた手書きの「高水山周辺案内図」に書かれていた、「逆川ノ丸」とその先にある「富士山ビューポイント」に興味を持った事もあり、黒山まで戻ってから岩茸石山方面に向かうことにした。

(山行日:22/05/23)



# 和名倉山遠征

JA1DGW 望月 直樹

埼玉県秩父市の和名倉山、別名白石山に5月21日将監小屋一泊で行ってきました。

その山に決めた理由は、今秋には喜寿になる。野望かも知れないが少し時間の掛かる山に記念登山に行きたいと思っていた。山に行く為の準備はできるだけ歩く、時には多摩湖周囲を3時間以上歩くなどして準備を進めていた。その一環として4月の一斉移動で御前山に登った。しかし御前山登山では予定時間より遅れての山頂到着で体力の衰えが身に染みた。その時点ではどうなるかなと言う気持ちもあったがそれでも諦めず更に少しは歩いた。

和名倉山登山は登山情報をネットで検索すると、健脚の方は将監峠登山口から日帰りするそうだが自分にはとても無理な話である。何故なら体力の問題と無線する時間が取れないからである。将監小屋



将監小屋

一泊でいこうと決め計画を立てた。

でも前日の行動で将監峠登山口から将監小屋までは2時間余のコースタイム。山小屋泊まりに併せてゆっくり登るのもひとつの手ですが、それだけでは時間ももたない気持ち、だとすれば近くの山に行こう、何処にするか。竜喰山(りゅうばみやま)は明確な登山道が無いらしい、ではと別の山でそこそ近い、翌日のルート確認を含めて西御殿岩に決めた。

予定日の前々日までの天気予報では当日の予報は余り良くない予報が続いていた。しかし、前日の予報では20日甲州地方は曇り、晴れ間があるとの事で決行を決定。

一日目は将監小屋経由西御殿岩へ、将監峠登山口の駐車場は前日に予約電話してあり余裕の気持ちで7時前に到着。しかし片側は満車、女将さんに道路反対側に止めるよう指示を受け駐車、さっと身支度してまずは林道歩きの登山開始。

林道を気楽に歩く途中で6人組パーティーに抜かれた。将監小屋には2時間程で9時に到着、先に進んだ方々が居たので



将監峠登山口



行き先聞くと10時間歩き無人小屋(笹平)予定と聞き自分には出来ない行程だ! 頑張る方居るのだと感心した。

西御殿岩に行く為の荷物をサブリュックに詰めながら小休止、メインリュックは前の小屋に置く。9時半過ぎに御殿岩に向けて霧の中出発しました。10分程で将監峠の尾根に出て、昼頃は晴れるかなと気楽に進む。山の神土四方向分岐点で進路確認、そこからは緩い登りの登山道、一部崩れを回り込む以外は概ねまあまあの道を進む、霧は強烈ではないが霧雨は無く、もう西御殿岩分岐点のはずとGPS連動マップ確認すると足下に案内板が寝ていた。そこからは笹の中でやや急坂、登山道は余り整備されていないなと思いつつ登ると先が明るく尾根が近くなった。霧の水滴で生き生きとした石楠花の蕾・花が咲いていた、疲れも癒やされる。さらに近くの岩に花卉がハート型のコイワザクラが咲いていた。ピンクの花弁がいい。そこから山頂は直ぐであった。

西御殿岩に概ね予定時間の11時前に到着、霧があり遠望はきかない。割と狭い山頂で無線の準備、昼食を済ませV・



西御殿岩 頂上

UHF帯で無線するぞとモニターするがSメーターは振れているのに音が出ない! アリヤアどうしてかな。SQLスイッチを押すと聞こえる、でもSQLを押しながらの交信は無理なので色々触って何となく解除出来た。霧の中でも霧雨が無く、風も無く寒くも無かった。のんびり11局とUHFで交信した。

14時には下山開始、山の神土分岐点手前で女性一人笠取小屋まで行くと言う。大したものとこれまた感心。山の神土で和名倉山から来た方とお会いした。見るとアイゼンしてる。雪は無いですよねの質



山の神土 分岐点



無線機

間に、この先登山道が悪いところあり滑り止めと言う言葉に少し心配しました。お泊まりの山小屋へは15時半過ぎに到着。着替えして玄関のストーブの横で他の方と雑談して夕飯まで過ごす。夕飯は美味しいカレーで量が多く6人中最後になり完食。宿の主人は優しい方でした。皆さんの寝る準備も手伝い、指示もしてくれた。

二日目は将監小屋から和名倉山へ、朝四時半頃？ 蛍光灯点灯で起床、5時からの朝食はネットで見た食事とは大違いの格段上、どんぶり一杯のご飯とおかず類5品と多い、ホテルの朝食みたいと皆さんの感想、女性陣は横の男性にご飯あげていました。自分は頑張っ完食。6時前にご主人と記念撮影お願いして、サブリュックで行くと話す置いて行くリュックは下に下ろしてあげると言ってくれた。有り難い事です。

さあ出発準備完了、和名倉山に行くのは他に4人。自分はマイペースで弱い霧の中スタート、将監峠から山の神土までの尾根道は両サイド草刈りされており勾配も緩やかで歩きやすい。分岐点から先暫く



将監小屋の主人と記念撮影

は前日の情報通りはっきりしない登山道に倒れた笹と言うか、踏みつけられた上を滑らないように注意して進む。7時頃には天気予報どおり霧もとれて山並みも確認できるようになり、前方の山も望めるようになった。西仙波手前から石楠花の花が咲き石楠花トンネルくぐり抜け更に進むと富士山と共に見ることもできた。東仙波は南東から西側は邪魔な木も無く富士山も見え、見晴らしが良く登ってきたルートが確認できた。携帯電波環境も良く突然メール、電話が鳴る。野鳥好きの知人から珍鳥情報受ける。しかし、急には戻れないので諦めた。小休止して先に進む、そこからも尾根道



19日の夕食



石楠花と富士山

でも何力所か岩場で滑りやすい処もあり注意しないとイケない箇所もあったが極端な登り返しは無かった。国有林でありこの間には昔材木の搬出に使用したワイヤーが登山道にも残っていた。

和名倉山には予定の10時過ぎに到着、三角点も有る。苔の生えた妖精の居そうな場所でもあった。和名倉山名は、北側の和名倉沢の源頭から採られ、白石山は秩父側の呼称で東仙波の東側芋ノ窪にあるとされる白い岩の山からきているらしい。他の3人も同じ頃到着しシャッター押していただけた。自分は山頂で軽くQSOと思ったがコンテスト(群馬)でチャンネルはかなり埋まっていた。コンテスト不参加局にお声がけした1局で終わった。木陰よりも陽当たりのいい東仙波まで戻りそこでお昼とすることにした。12時過ぎに到着し昼食そこそこに無線機にON、山岳移動のCQ局は見当たらない。自分がCQ出そうと思いましたがもし長引くと帰りに影響すると応答の2局にお声がけして行動に余裕を持たせる気持ちで13時には徒歩開始した。



和名倉山 山頂



将監小屋を望む

分岐点の山の神土までは慎重に歩いたせいか、または疲れて速度が出ないのか予定より15分オーバーで到着、その先は道が良いはずと思うと安堵の気持ち、概ね事前計画の予定時間で動いているとホッとして元気が出た。下山ルートは当初の計画では将監峠・将監小屋に寄りリュックを回収し道の良い林道を歩き登山口に至る予定、将監小屋は用事無くなり歩かない牛王院平を通り七ツ石尾根を下る。その登山道は道幅もあり手入れされていて割と綺麗な登山道で分岐点までスムーズに下山できた。でも登りは高度差があり辛そうな感じ。その合流点からは林道歩きとなる。その時点で思ったことは、ルートはアップダウンが割と小さく思ったよりも脚の疲れや足指の不快感も無く約10時間の徒歩、何人かに先を譲る、マイペースながら滑る事もなく良く頑張ったと自己満足。

駐車場に到着して民宿の小母さんからリュックを受領、お茶や天ぷらのご馳走受け山の話などで少し雑談、もう少し話し込むと渋滞の事もありそこそこで失礼して帰宅した。

# プチ冬山を楽しんだ菜畑山

## JH1QZW 滝沢 芳章

### プロローグ

道志山塊の山はアプローチが悪くて自宅から近い割には登り残した山が多かった。若い頃は公共交通機関を利用して山に登っていたので、どうしても鉄道駅に近い山を選んでしまう。中年になってマイカーを利用できるようになると、逆にアプローチの不便な山を選んで登るようになったのは、静寂さを好む者にとっては当然の結果なのかもしれない。

そんな中で、前回に菜畑山を訪れたのは16年前だった。南面にはNHKのテレビ中継塔があり、専用道路が通行禁止では無かったので1070mコンターまで上がることができる。菜畑山の標高は1283mなので、約200m差で登ることができるというオイシイ山であった。

その後、この山には何回か登ろうとしたが、倒木が倒れていたり、最近では台風などの影響で路肩の崩壊などもあり、中

止を余儀なくされていた。それなら、国道413号線(通称道志みち)から歩けば良いではないかと言われそうだが、ものぐさになったのはマイカー登山と加齢によるためか(要は、体力が落ちてきたことへの裏返しなのですが)。

### なんと雪がある

暫くぶりに訪れたのは今年の12月だった。国道から専用道路に入ると獣用のゲートがある。里山の喪失によって田畑を荒らされる被害が増加し、この道志村では共同でフェンス囲いすることを選択した。人間が檻の中にいるようで、昔では考えられなかったことだが。

ゲートを開けて、専用林道を上がるに従って、「道志みち」には無かった白い物が所々に積もっていた。前日は冬型で日本海側は大雪の映像が流れていたが、太平洋側でも標高が高い所は雪だったのだ。終点まで行けるかどうか、ヒヤヒヤしながら登っていくと、幸いにも4WDのノーマルタイヤで、なんとか登りきることができた。



日の出



雪の華



クマの足跡

### 気持ちよい雪道

登山道には危険箇所も無いので、足回りはチェーンアイゼンなしの長靴とした。最近の登山では、安いビニール雨具と長靴のセットが定番になっている。転倒しても下半身が汚れるのを防ぐため、もちろんゴアの雨具もザックに入れてある。

この長靴は、最近「コメリ」でゲットしたもので、一足400gとゴム長に比べて半分の軽さで、非常に歩きやすい。

7:40に出発。登るに従って雪が増えてきて、全面雪景色になった。歩く度にキュッキュッと締まった心地よい音を久しぶりに聞く。

### クマの足跡がある

中間あたりまで来ると、動物の足跡が横断していた。大きさからクマの足跡で、今朝のものだろう。

上越や会津では、残雪期に良くクマを目にしたが、クマの方で先に気付いて逃げてくれた。その速さは驚異的で、体が沈む軟雪であっても走るようなスピードだっ

た。もし向かってこられたら、とても逃げ切れるものではない。

無雪期には、一度だけ接近したことがある。それは赤湯温泉で、温泉先の尾根取り付き付近にクマを発見し、あわてて地面に這いつくばった。距離は50m足らずだったと思う。幸い風下だったので、クマはこちらに気付かなかったが、心臓はバクバクだった。

その後視界から消えたが、クマのいた方向に進む勇氣はなくて、苗場山登山は中止して引き返した。

### 先行者の足跡がある

雪景色が綺麗で、写真を撮りながらノンビリと歩き、8:16に山頂手前の稜線に出ると、そこにはなんと先行者の足跡があった。今倉山方面から、この菜畑山まで往復している。道坂峠から来たとすれば、暗い内から歩いてきたことになり、かなりの健脚者だ。いま流行りのトレランなのだろうか。足跡は、休憩もせずすぐに引き返していた。



雪の華



山梨百名山



16年前の東屋

### 雪景色の中でQSO

山頂の積雪は約5cmで無風。日が上がる前に、雪景色をカメラに収めてから、雪を掻いてブルーシートを敷く。こんな景色の中で運用するのは、尾根伝いにある今倉山の2020年に続いて二年目。この今倉山では2005年にも新雪の中でQSOしており、これは偶然なのだろうか。

コンクリート製の東屋は、イスだけ残して倒壊していた。一本柱では重い屋根を支え切れなかったのだろう。

8:50にミズホのポケットDPを立ててピコ6で開局したら、良いテンポで呼ばれ続け、約一時間で26局と交信できた。あまりにもテンポが良すぎてラグチューする暇がなかったのは残念だったが。

その後、美しかった雪の華は過半数が落ちてしまったが、白い世界に溶け込んでいるだけで満足し、ノンビリと余韻を楽しむ。対面の大室山は、1000mコンター位から白くなっている。



イスだけ残る東屋



雪をかき分けて移動運用

## トレランに会う

下りは、落ち葉上の雪が滑りやすいので慎重に歩を進め、11:30に道路終点に着いたら、ちょうど一人が歩いて登ってきた。鳥ノ胸山から来たというトレランで、これから今倉山まで行くのだという。ここはガイドコースにでもなっているのだろうか。雪道ではトレランシューズがびしょ濡れになるが、そんなことはお構いないようだ。

昨今、山でトレランを目にすることが多くなった。軽装で山の中を走るのは、本人

にとっては快適なのだろう。しかしここは山の中、万一のことがあったらどう対処するのだろうか。安易にスマホで助けを呼べば良いとでも思っているのだろうか。救助隊はそんなに早くは来てくれない。到着するまでは自分で命を守らねばならない。ツェルト・雨具はあるのか、夜の暗闇に耐えられるのか。帰りの車で、他人事ながらそんなことを考えていた。

(山行日 2022(令和4)年12月18日)

(投稿日 2023(令和5)年 5月31日)



丹沢大室山

## くじゅう連山縦走

JK1VUZ 三縞 健司

勤務先の永年勤続休暇(35年)を使って2022年10月に4泊5日で九州の屋根、くじゅう連山の縦走旅行を計画した。9山、紅葉あり、温泉あり、テント泊あり、観光ありの盛りだくさんの計画だ。

### 10月14日(金)

羽田発のANAで大分に0925着。羽田空港はどんより曇っていたが大分空港は晴れている。幸先がいい。初日は移動と別府観光だ。大分空港からリムジンバスで別府駅に移動し、路線バスに乗り換えて別府地獄めぐりのある鉄輪温泉に向かった。まずはキャンプ用の燃料を購入するためにホームセンターに行った。飛行機移動のキャンプでは燃料の現地調達が課題なので、どこで購入できそうかをネットで調べておいた。無事に燃料(エスビット風の固形燃料)を購入できたので、海地獄、かまど地獄など観光して、バスで別府駅に戻って遅い昼ごはんを食べてJRで

豊後竹田駅に1610着。駅舎は武家屋敷風の外観。ここから路線バスで今日の宿がある七里田温泉に移動した。

今夜の宿の「民宿みやま」は登山客や運動部の合宿などに使われるようだが、今日の客はどうやら私ひとりのようだ。荷物を下ろして、宿からすぐの七里田温泉の下ん湯(したんゆ)へ。日本無類の炭酸泉で別名ラムネの湯。37℃と低温の温泉だが湯船につかるとからだ全体がシュワシュワと泡で覆われ、炭酸の効果なのか長湯をしているとじわっと温まってくる。宿に戻り、夕食は豊後牛の焼肉食べ放題。満腹になって寝た。

### 10月15日(土)

2日目は大船山(たいせんざん)に登って坊ガツルの法華院温泉に下山する。

民宿でたっぷりの朝食をいただき、宿の軽トラで岳麓寺登山口から標高840m付近まで送ってもらった。宿のオヤジが言うには、昔はこちらからの登山が表だったのだけれどやまなみハイウェイが整備されてからは反対側の長者原から登る人が



七里田温泉 ラムネの湯



ひとりで焼肉食べ放題の夕食



ほとんどになったとのこと。

0800に登山開始。宿から歩く計画だったので1時間早くスタートできた。天気は晴れ、少し暑い。すすきが広がる気持ちの良い舗装路を快調に40分ほど歩くと登山口。ここから登山道を登り始めた途端に、暑さと昨夜からの食べ過ぎとテント泊装備の重さで足が進まなくなった。あっという間に後から来た3組に追い越された。なかなか進まない足をなんとか動かして登っていくと標高1400m付近の

山中に突然大きな石造りの史跡が表れた。当地の岡藩主で大船山を愛した中川久清の墓所だそうだ。ここからは登りがきつくなる。1時間あった計画からのアドバンテージは20分に減っているが少し休憩をして再び登り始める。標高1600mくらいからは登りが緩くなり紅葉が濃くなってきた。紅葉には少し早いと思っていたので嬉しい誤算だ。みごとに紅葉している御池を過ぎると標高1786mの大船山山頂に到着。時刻は計



大船山 御池のみごとな紅葉



大船山山頂

画どおりの1200。コースタイム+1時間の4時間かかった。登山客で賑やかな山頂から少し離れてDJ-G7で430MHz FMをワッチすると近くの鶴見岳の移動局が聞こえてきてS2S QSOができ、続けて福岡県、愛媛県、山口県、広島県とつながった。簡単な昼ごはんを済ませてから、FT-817NDと釣竿バーチカルに切り替えて21MHz CWでSOTAサービス。トータル11QSOで1400に終了して下山を開始。坊ガツルを経て1600に法華院温泉山荘に到着。山荘のテントサイトに空きがなければ坊ガツルのテント場(無料)まで戻るつもりだったが、幸いまだ空きがありテントサイト800円+温泉500円。夕飯は別府で購入した燃料でお湯を沸かしてカップ麺。山荘の温泉に入ったあと、山荘で購入した缶ビールで乾杯し、

久しぶりの満天の星を楽しんだ。

## 10月16日(日)

3日目はくじゅう連山6山を縦走して牧ノ戸峠に下山し、バスで由布院に向かうかなりタイトな計画だ。

まだ薄暗いうちに目が覚めた。よかった、晴れている。湯を沸かしアルファ米の朝食。明るくなるのを待ってテントを片付けたが、久しぶりのテント泊で手際が悪く出発は0700。スタート時点で計画から1時間遅れてしまった。銚立峠に向かう道は令和2年7月豪雨の爪痕がひどく大小の岩や枯木で歩きにくい。途中ですれ違った女性ハイカー2人に「シラクチに行くのですか、大変ですね、頑張ってください」と不気味な脅かしを受け、ビクビクしながら



360度大展望の白口岳山頂

ら進むことになった。鉾立峠から白口岳(しらくちだけ)への登山道はぬかるんだ粘土でスリップ痕がたくさんあり、ああ脅かされたのはこれのことだなとわかった。おそらく山荘から往復するものと思ったのだろう。重装備の下山には使いたくないルートだ。0900に標高1720mの白口岳山頂に到着。360度の大展望の広い山頂からは坊ガツルの全景が俯瞰できる。昨日の大船山や遠くには明日の由布岳も見えた。青空の下、もうここで昼寝したいくらい気持ちがいいが、計画からの遅れが2時間に拡がっているのんびりしてはいられない。DJ-G7で433MHz FMをワッチすると山口ロールコールが聞こえてきたのでチェックインして1QSOで終了。急ぎ足で分岐点の稲星越まで下った。

次は稲星山(いなぼしやま)を經由して中岳に行く計画だったが、遅れを挽回するため稲星山はパスしてまっすぐ中岳に向かう。稲星越から中岳への狭い登山道では両側に茂っている硬い低木が半袖の腕を引っ掻いて思わず「痛てっ」と声が出てしまい、慌ててウインドブレーカを重ね着した。1000に標高1791m、九州本島最高峰の中岳に到着。稲星山での運用をパスしたおかげで遅れは15分まで短縮した。山頂はさすが九州の屋根、くじゅう連山全体が見渡せる素晴らしい眺望だ。DJ-G7でワッチをすると、さきほど交信できた山口ロールコールが1200MHzで聞こえるので、8エレ八木をセットしてコールしつなげた。その後も1200MHzで山口県、福岡県と交信ができ、続いてDJ-G7とRH-770で



中岳山頂から坊ガツル方向



久住山山頂から星生山方向

144MHzで福岡県、熊本県、山口県、430MHzで長崎県、熊本県、佐賀県、広島県と交信し、トータル15QSOで終了。ついつい時間を忘れて交信していて気づいたらまた計画からの遅れが50分に拡大していた。

下った分岐点から次の目的地の天狗ヶ城を見上げると怖そうな岩山で「滑落注意」の立て札もある。中岳で遅れを払ってしまったこともあり、滑落注意を言い訳に天狗ヶ城はパスして、御池の縁を通過して久住山に向かう。ここは山頂まで往復するので、山頂手前の分岐にテント装備の重いザックを置いて、DJ-G7だけを持って標高1787mの久住山山頂まで急ぎ足で登り1220に山頂着。星生山から三俣山にかけての荒涼とした景色が面白い。

阿蘇山も見えた。ここでは144MHzと430MHzで1QSOずつで終了。近くにいた方に山頂標識で記念写真を撮っていただき1300に撤収。来た道に戻り、ザックを拾って次へ向かった。

次の目的地である星生山への分岐の久住分かれでちょっと悩んだ。天狗ヶ城をパスして計画からの遅れはほぼ解消していたが、今日はコースタイムから遅れ気味で、もし牧ノ戸峠の最終バスに乗り遅れたら立ち往生してしまうので、こんな素晴らしい景色はもう一度見に来るべきと自分に言い訳をし、星生山をパスして牧ノ戸峠に向かった。色とりどりのみごとな紅葉を堪能しながらしっかり整備された登山道を下って牧ノ戸峠に1500着。計画より20分早くゴールした。ようやくうまれ

た余裕時間でビールとソフトクリームをいただき、ちょうど来た1528発由布院行きのバスに乗った。

湯布院の宿は金鱗湖の近くのペンション。ここで2泊する。

### 10月17日(月)

今日は由布岳を予定していたが朝からあいにくの雨で登山は中止し湯布院観光にした。正直なところ、昨日の縦走でハトハトにつかれていたので恵みの雨だ。

湯布院は小さな町なので1日で十分に観光できる。金鱗湖の湖畔にある茅葺屋根の共同温泉などでのんびり過ごした。

### 10月18日(火)

今日は東京に帰る日。大分空港からの飛行機は最終便を予約しているので、途中の鶴見岳標高1375mに登った。登ったといっても、山頂直下までロープウェイで行けるので、片道10分くらいしか歩いていない。山頂はガスっていて360度真っ白で何も見えない。時間はたっぷりあるので、FT-817NDとDJ-G7で18、21、



鶴見岳山頂

144、430、1200MHzで1030から1230まで2時間ゆっくりSOTAサービスをしてトータル8QSO。時間は余裕があったが気温が8℃で寒くなりロープウェイで下山した。

帰りの便まではまだ時間があったので、杵築でバスを途中下車して城下町を散策し、最終便のANAで羽田に戻った。

ということで、4泊5日のくじゅう連山縦走&無線旅行の成果は5山、SOTA28ポイント、37QSOとなりました。初めての九州登山で、また初のポータブル6の無線運用となり、これで0~9の全エリアで無線運用ができたこととなります。

(登山日:2022年10月14日~18日)



湯布院 金鱗湖湖畔の共同温泉



2023.04.22-23 山と無線一斉移動記録 (成果)

移動日	局名	名前	移動ピーク	移動地	運用時間	メンバー間交信(相手局 ( )内受信のみ *は一斉移動地以外から	7	50	50	50	144	430	1200	Total	周波数:リグ/アンテナ		
							SSB	SSB	CW	AM	SSB	SSB	FM		FM	FM	FM
04月22日	7K1CPT	山田	川越山 (カゴゼ山) 766.3m	埼玉県秩父横瀬町	10:30~13:30	430M/FM:J11HWM							21	2	23	430M : IC-705 / 2ske Yagi 1.2G : DJ-G7 / 3ele Yagi	
	7K1BAE	青柳	扇山 1138m	山梨県大月市	11:30~13:00	50M/SSB:JH1QZW,JF2HBH,JL1BWG,K1VUZ,J11TL									10	50M : 2.5w / ミズR/PAN-62	
	JA1DGV	望月	御前山 1405m	東京都西多摩郡奥多摩町	10:00~14:00	50M/SSB:J11UUN								5	12	50M : IC-705 / skydoor 430M : IC-705 / RH770	
	JF2HBH	塚	浅間山 516m	静岡県伊豆市	10:19~13:50	50M/SSB/AM:7K1BAE,JH1QZW,J11TL,K1VUZ,JL1BWG,JR1NNL,*J1K1DA,*J1M1RN			40		1				41	50M : FT-857 (50w) / 2エレH99CV 144M : FT-857 (50w) / RH-770/4mH	
	JF3KJLH	横田	大洞山麓区 1013m 尼ヶ岳 957m	三重県津市	09:00~11:00 13:00~15:00			13	7		3				23	7M : FT817ND / LVDP 7M : FT817ND / LW 9 50M : FT817ND / SKYDOOR 144M : FT817ND / 3-エレ	
	JH1HRT	津村	九鬼山 970m 馬立山 797m	山梨県大月市	11:00~11:20 13:30~14:00	430M/FM:J11TL								3	3	430M : FT817ND / RH770	
	JH1QZW	滝沢	峰崎山 454m	東京都日野市	08:00~11:40	50M/SSB:*J1M1RN,JL1BWG,JF2HBH,J1KAE,JR1NNL,J11TL,7K1BAE,J11UUN								4	4	430M : ID-51 / RH-770	
	J11TL	須崎	権根山 1312m	山梨県、上野原市	11:04~13:47	50M/SSB/AM/CW:J11UUN,JL1BWG,JH1QZW,K1VUZ,J11KAE,JF2HBH,7K1BAE,*J1M1RN 430M/FM:JH1HRT			26	2	2			2	32	50M : FT-690(2.5W) / ヘンテ 430M : ID-31(2.5W) / RH-770	
	J11HWM	片桐	銀山 330m	千葉県富津市	11:51~12:56	430M/FM:7K1CPT,K1VUZ								15	15	50M : IC-705(SW) / スカイドア 430M : IC-705(SW) / 5エレループ	
	J11KAE	岩倉	石尊山 486m 深高山 506m	栃木県足利市	10:00~11:00 11:35~12:15	50M/SSB:JH1QZW 50M/SSB:J11TL			2						2	2	50M : ヒコ6+リニア / DP
	J11UUN	佐々木	藤釣山 1379m	神奈川県足柄上郡山北町	09:30~13:20	50M/SSB:JL1BWG,JH1QZW,JR1NNL,J11TL,JA1DGV,K1VUZ 144M/FM/SSB:JS1QJE 430M/FM/SSB:JK1NAG			21		3			3	27	50M : IC-705(10W) / V.DP 144M : IC-705(10W) / RH770 430M : IC-705(10W) / RH770	
	JK1NAG	河野	湘南平 180m	神奈川県平塚市	12:30~12:50	430M/FM:J11UUN								4	4	430M : FT65 / whp 430M : FT65 / ハモアンテナ 144M : IC-T81(SW) / RH-770 430M : IC-T81(SW) / RH-770 1.2G : IC-T81(SW) / SRH-999 s	
	JK1RGA	河野	陣馬山 854.8m	東京都八王子市	11:30~13:00	144M/FM:K1VUZ 430M/FM:JR1NNL								20	1	21	50M : FT-817ND / Skydoor 144M : DJ-G7 / SRH770 430M : IC-T81(SW) / RH-770 1.2G : IC-T81(SW) / SRH-999 s
	K1VUZ	三橋	万三郎岳 1405m	静岡県伊豆市	11:30~14:30	50M/SSB:J11TL,J11UUN,JL1BWG,7K1BAE,JF2HBH,*J11Z1Z,*J1K1DA 144M/FM:JK1RGA 430M/FM:J11HWM			39		1			3	43	430M : DJ-G7 / SRH770 430M : DJ-G7 / 7エレハム 430M : FT-817ND / 7エレハム 1.2G : DJ-G7 / 8エレハム 50M : FT817 / ヘンテナ	
	JL1BWG	飯田	御座入山 1480m	山梨県都留市	08:00~15:00	50M/SSB:*JE1A0B,JH1QZW,J11UUN,*J11STD,K1VUZ,*J1M1RN,*JK1KDA,JR1NNL, 7K1BAE,JF2HBH,JA1DGV			73						73	50M : FT817ND / ヘンテナ 430M : VK7 / RH770 7M : IC-7100 / DP	
	JM3GVH	大梅	御嶽山 33m	大阪府枚方市	05:48~11:05			25							2	27	430M : DJ-G7 / RH770 1.2G : DJ-G7 / D-LOOP 50M : IC-705 / ヘンテナ
	JR1NNL	後藤	御坂黒岳 1792m	山梨県笛吹市	10:00~13:00	50M/SSB:JH1QZW,J11UUN,JL1BWG 430M/SSB/FM:JK1RGA			10		6		1	14	31	144M : IC-705 / RH770 430M : IC-705 / RH770	
	JS1QJE	関口	竜崎山 2011m	埼玉県秩父市	12:00~14:00	144M/SSB:*JA1VWH,J11UUN								27	27	144M : FT-818(2.5w) / HB9CV 430M : ID-31(2.5w) / 7'リグ	
04月23日	7K2FAE	志村	大山 1252m	神奈川県伊勢原市	09:00~12:00	50M/SSB:*J11TL,*J11STD,J11HWM 144M/SSB:JE40FK 430M/FM:JM1RNP,JS1QJE,*JR1JPD,*JK1RGA,K1VUZ,*JE1NWF,*JA1VWH			30		1			25	56	50M : IC-705 / RD-S106 144M : IC-705 / RH770 430M : IC-705 / RH770	
	7M4CUO	山村	大菩薩峠 1897m	山梨県甲州市	08:00~12:00	430M/FM:J11TL 430M/FM:JR1NNL,JK1RGA,J11STD,JE1UUM,JS1QJE,K1VUZ								14	18	430M : FT-817 (1W) / RH770 430M : VK-6 (2.5W) / RH770	
	JE40FK	藪内	三ノ塔 1205m	神奈川県秦野市	09:00~12:07	144M/SSB:J11STD,7K2FAE 430M/FM:*JF6MZN					47			1	48	144M : FT-2902.5W / プロライオンAL-144F 430M : IC-T905W / WHIP	
	JF2HBH	塚	御嶽山 867m	静岡県伊豆市	09:30~13:00	50M/SSB:JL1BWG,(7K2FAE)			4		8			10	22	50M : FT-857 (50w) / 2エレH99CV 144M : FT-857 (50w) / RH-770/4mH	
	JF6MZN	宮崎	三ノ塔 1205m	神奈川県秦野市	09:45~11:30	430M/FM:JM1RNP,*JE40FK,*JK1NAG								58	58	430M : YAESU FT-690(500mW) / 12エレハム	
	JH1QZW	滝沢	城山 434m	東京都あきる野市	07:40~10:20	50M/SSB:*J11KAE,*JR1NNL,JL1BWG,*J11TL,(7K2FAE)			25					1	26	50M : FT-817 / PAN-62 430M : ID-51 / RH-770	
	JJ00PV	清水	諏訪山 1550m ヤツツチクラ 1490m	群馬県多野郡上野村	09:32~10:00 10:50~11:11	430M/FM:JK1NRL 1.2G/FM:(JK1NRL)								3	3	430M : ID51 (5W) / RH770 1.2G : TH-59 (0.7W) / 9'リグ	
	J11HWM	片桐	富山 350m	千葉県南房総市	10:13~11:56	50M/SSB:7K2FAE,J11UUN,*J11TL,K1VUZ			18						18	50M : IC-705(SW) / スカイドア 430M : IC-705(SW) / 5エレループ	
	J11UUN	佐々木	大室山 1588m	神奈川県相模原市緑区	09:00~13:35	50M/SSB:JL1BWG,J11HWM,K1VUZ,*JR1NNL 430M/FM/SSB:*JA1VWH,*J11Z1Z,JS1QJE			38					18	56	50M : IC-705(10W) / V.DP 144M : IC-705(10W) / RH770 430M : IC-705(10W) / RH770	
	JK1JFW	有原	茅ヶ岳 1704m	山梨県北杜市/甲斐市	12:00~13:30	430M/FM:(JK1NRL),7M4CUO									8	8	430M : FT-70D (2W) / SRH770
	JK1NAG	河野	三ノ塔 1205m	神奈川県秦野市	09:45~11:30	430M/FM:K1VUZ,*JF6MZN									15	15	430M : FT65 / whp 430M : FT65 / ハモアンテナ
	JK1NRL	竹之内	子持山 1297m	群馬県渋川市/沼田市	09:30~12:40	430M/FM:JJ00PV,JS1QJE,(JL1FD1),7K1CVP,*JN1NCB			2					5	14	6	50M : K03 (5W) / DP 144M : DJ-G7 (1W) / RH-770 430M : DJ-G7 (1W) / RH-770 1.2G : DJ-G7 (1W) / SRH-999
	K1VUZ	三橋	宮塚山 508m	東京都利島村	09:30~12:00	50M/SSB/CW:J11UUN,J11HWM 430M/SSB/FM:7K2FAE 430M/FM:JK1NAG			2	1				1	2	12	430M : DJ-G7 / SRH770 430M : DJ-G7 / 7エレハム 430M : FT-817ND / 7エレハム 1.2G : DJ-G7 / 8エレハム
	JL1BWG	飯田	鳥ノ胸山 1208m	山梨県南都留郡志村	08:00~14:00	50M/SSB:JH1QZW,J11UUN,JF2HBH,(7K2FAE)			18						1	19	50M : FT817 / ヘンテナ 50M : FT817ND / ヘンテナ 430M : VK7 / RH770
	JL1FD1	村上	地蔵岳 1674m	群馬県前橋市	09:30~13:00	50M/SSB:(*JR1NNL) 430M/FM:*JN1NCB,JS1QJE,*J11TL,*JK1RGA,*JA1VWH,(JK1NRL)			1					13	14	50M : ヒコ6 / ヘンテナ 430M : ID-31(2.5w) / 7'リグ	
	JM1RNP	山本	鏡前山 1272m	神奈川県足柄上郡松田町	11:00~13:00	430M/SSB/FM:7K2FAE,JF6MZN								9	9	430M : DJ-SS72V / コシニエ1 0.8	
	JM3GVH	大梅	旗坂山 345m 交野山 341m	大阪府交野市	07:30~09:07 10:00~12:22									8	8	7M : IC-7100 / DP 430M : DJ-G7 / RH770	
	JS1QJE	関口	唐松尾山 2109m	埼玉県秩父市	09:00~12:00	430M/FM:JK1NRL,JL1FD1,7K2FAE,7M4CUO,J11UUN								19	3	22	1.2G : DJ-G7 / D-LOOP 144M : FT-818(2.5w) / HB9CV 430M : ID-31(2.5w) / 7'リグ

新規会員募集

## 山岳移動通信 山と無線 とは

山岳移動通信 山と無線 は山好き・無線好きの各局が集うグループです。

- 情報共有のサロンとして「山と無線メーリングリスト」に参加していただけます。
- 登山も無線も初心者からベテランまでさまざまな方が参加しています。
- 年1回発行している「山岳移動通信・山と無線」誌は、移動各局の随想や紀行文・移動運用記を中心に、メンバーが各々の山行と無線にまつわる出来事を文章に綴り自由に投稿したもので成り立っている同人誌・ミニコミ誌です。
- 山岳移動通信 山と無線 に参加して、読むだけでなく随想や紀行文を投稿することでの楽しみ方を増やしてみませんか。
- 当グループは特に会費も会則もないグループです。
- 年に1回位はメンバーで集まろうよということでハムフェアへの出展を続けています。展示ブースは8月天の川の出会い・アイボールの場でもあります。  
また山にも一緒に行こうよということで、希望者を募り一泊でのアイボール会を例年秋に実施、フェスティバルと称し山に登って山頂から電波を出しています。

こんな山岳移動通信 山と無線 への参加を心よりお待ちしております。

ご入会、お問い合わせはホームページをご覧ください。

<http://yamatomusen.com/info/>



山岳移動通信

# 山と無線

山岳移動通信 山と無線 60号

編集 山と無線 編集室

発行 2023年8月19日

発行者 JK1VUZ 三縞 健司

Email jk1vuz@gmail.com

表紙写真 鳥海山 七高山山頂

撮影 JK1VUZ

転載はご一報ください。